からいもったとうもしのもったもしてもしてもしてもしてもった

Castle Guide ***XJI HAF More More Enjoy

Take Free

Vol. 10 2017 AUTUMN



彦根キャッスル リゾート&スパ

リゾート&スパ HIKONE CASTLE RESORT&SPA

築城410年祭 ON むっちりボディに井伊軍団のシンボル・赤備え の兜を装着。日々、彦根市のアピールを頑張るひ んは、井伊直孝を助けた"招き猫"がモ お寺の門前で井伊直孝を手招きし 雷雨から救ったと伝わる猫の 話が伝えられている。

国宝彦根城

Photo: 玄宮園 ライトアップ ひこにゃん 彦根市許諾(無償)No.A1720051

特集

歴史の面影が残る 彦根城下町

HIKONE castle town felted the history 築城410年祭 イベント情報 錦秋のひこねを存分に愉しむ

> ゆらっと遊覧 彦根城お堀めぐり 旧彦根藩松原下屋敷 特別公開 線秋の玄宮園ライトアップ

特集 近江牛鉄板焼 鳳凰

PICK UP 豊臣家に引導を渡した"夜叉" 武将vol.2 井伊 直孝 NAOTAKA II

> 関ヶ原の戦いで活躍した初代・井伊直政の次男で、 2代目彦根藩主。父譲りの剛勇を誇り、大坂夏の 陣では豊臣方、最強の部隊の一人・木村重成軍を 撃破。豊臣秀頼と母の淀殿がこもる曲輪を包囲し、 一斉射撃を浴びせて自刃に追い込んだ。その苛 烈な戦いぶりから、ついたあだ名は「井伊の赤牛」 「夜叉掃部」。のちに幕府の元老となり、徳川家 光・家綱を補佐した。

Illust: 井伊家に伝わる甲胄の中でももっとも鏊った形。 無用な装飾がなく、実戦向きな造りとされる赤甲胄である。

彦根城の前期工事を手がけた"幻の2代目"直継

天下の名城と名高い彦根城。その工事は2期に分けて行われた。1期工事が始まったのは、徳川・豊臣の最終決戦が迫る慶長9(1604)年。新城の建築を望んだ直政はすでに没しており、長男の直継(直勝)が遺志を継ぐ形となった。この工事で造られたのは、本丸など城郭の主要部分。天下普請の急ピッチで作業は進み、天守は1607年の竣工となった。しかし直継は生来病弱だったらしく、強者揃いの家臣団をまとめるには器量も足りない。大坂の陣に弟の直孝が代わって参戦し武功を挙げると、幕府は藩主交代を指示。直継は上野安中3万石の分家初代となったため、彦根藩主としての履歴は抹消された。 *****では1608年ときれる

直孝の後期工事で完成した江戸時代屈指の大都市

兄に代わって2代目彦根藩主となった直孝は、大坂夏の陣が終わった元和元(1615)年、井伊家単独による2期工事を開始した。公務や儀式を行う表御殿を造営し、1重だった堀を3重に増設。そして堀を利用した城下町の整備にも取り組んだ。前期工事も含めると、城郭の全容完成までに費やした歳月は約20年。その都市の規模は全国でも10本の指に入るほどだったとも伝わり、当時の旅人は「さすがは彦根中将様(井伊家)のお膝元」と賞賛したという。今回は、そんな大規模な土木工事によって造られた、彦根の城下町をフィーチャー。往時の面影を探る。





▲ 彦根城鳥瞰図 天保七年 上田道三作成 彦根市教育委員会文化財課所蔵「彦根城郭及市街図」 この地図は、玄宮園前の

城下は3重の堀で4層に分けられ、内堀より中は本城。内堀と中堀の間には高禄の家臣の邸宅が 並び、中堀と外堀の間には中級武士と上層町人、外堀の外には中・下級武士と町人が居住した。

広くて立派だけど地味な町!? 殿の性格を反映した城下町の暮らし

2代目藩主・直孝の統治下で本格的に始まった、彦根城下町の歴史。江戸時代屈指の大都市だった上、都にも近いという位置関係から、さぞ煌びやかだっただろうと思いきや……。実はその雰囲気は「盛り上がりに欠ける」「灰色がかった町だ」と評されるほど地味だったらしい。剛直な性格で徳川家の信頼を得た直孝は、「戦の御用の時、茶の湯や舞で敵を討ち滅せるものか」と、家臣に武芸を奨励。

自身も含めて厳しい質素倹約を課した。 着るものは木綿に限り、「衣服を改めない 者は、自分に泥を塗ることになる」と、違 反者には泥を塗る罰則を徹底。この気風 は彦根藩に代々受け継がれ、ある一人の 家臣は、参勤交代で国入りした殿を絹の 一張羅で出迎えてしまい、恥をかいたと いう話も伝えられている。そんな真面目な 殿様・直孝が造り上げ、人々が真面目に暮 らした城下町・彦根。当時の人々はどんな 生活を送っていたのだろうか。散策して往時 の面影を探してみては?



▲ 夢京橋キャッスルロード

彦根城の南、中堀に架かる京橋から 350m にわたって続く道を「夢京橋キャッスルロード」という。かつては小売の大店などが軒を連ねた道で、荷運びがしやすいよう、道幅も6mと広く設計されていた。現在の道幅は3倍の18m。両側に白壁に黒格子の町家風店舗が建ち並び食事やショッピングを楽しみながら、往時の雰囲気に浸ることができる。

家臣と同じ 目線に座って

日本で座りて 素めごとを仲患

百戦錬磨の武田家旧臣をはじめ、強者ぞろいだった彦根家臣団。その武勇と比例して気性も荒く、家中で揉め事が生じることもあった。ある日、高位の家臣と下級武士の間でトラブルが起こった時のこと。直孝は高位の家臣の前に立て膝で座ると、「お前たちは俺の片腕だ。支えてくれないと困る」と説得。次に下級武士の前にどかっとあぐらをかいて座ると、「お前たちは私の子供も同然。いてくれないと戦もできない」と双方を論したという。殿が家臣と同じ目線で話すなど、当時は考えられないこと。その直孝の姿勢に家臣らはいたく感動し、矛を収めた。

極秘裏に進められた彦根遷御計画



尊王攘夷旋風が吹き荒れ、都の治安が乱れた幕末期。幕府の上層部ではあるプランが検討されていた。それは彦根遷御――つまり時の孝明天皇を、守りにくい御所から堅牢な彦根城にお遷しすること。思想家・佐久間象山は、これを提言したため攘夷派浪士に暗殺されたといわれる。が、彦根には興味深い話が伝えられている。実は象山以前から極秘に計画が進められ、遷幸用の巨大な船まで用意していたというのだ。長州藩と幕府側が御所付近で戦った禁門の変(蛤御門の変)が起こると、その御座船は実際に琵琶湖南部の堅田港まで出航したという。

◀ 西の丸三重櫓より望む琵琶湖と御座船イメージ

極秘裏に造られた御座船は、琵琶湖に面した彦根城下の船蔵に隠されていたといわれる。後に落雷で焼けたと伝わる幻のその船は、重厚な黒漆塗りで、屋根の上には金色の鳳凰が輝いていた。

彦根城410年祭 イベント情報



▲ 西の丸三重櫓 01 | Castle Guide



12月10日(日)まで開催

西の丸三重櫓特別展 プレイバック 城下町彦根シアター 築城から江戸時代にかけての彦根城や城下町をVR(バーチャルリアリティ)を用いて高精細なデジタル技術により再現した映像作品を西の丸三重櫓で「町づくり篇」を上映中。※彦根城の入場料が必要





城下時 善利 宅でが り時 上間の

辻を監視した足軽組屋敷の番所

善利組・旧磯島家住宅

城下町の最外郭に居宅を構え、城下を守っていた足軽衆。中でも 善利組は一番大きく、足軽組屋敷の面影を今に残す。旧磯島家住 宅では、現存唯一とされる監視用の建物・辻番所が見学できる。

公開情報

9時~ 16時 / 料金:無料 土日のみ公開 問い合わせ:0749-23-3073 (彦根辻番所の会)

休館日:12/23 ~ 1/中旬 ※2月は雪の影響により休館の場合あり

のぞき窓」から24時間交代で不審者を見張っていた

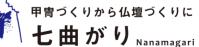
中級武士ゾーンに現存する遺構 旧池田屋敷 長屋門

Kyu-Ikedayashiki Nagayamon

中堀に近い第3郭に建つ、中級武家屋敷の貴重な遺構。池田家は元「伊賀者」として直孝に召し抱えられた忍者の家で、その後中級武士になった。奉公人の部屋や馬屋(復元)が公開され見学できる。

公開情報

9時~17時 / 料金:無料 休館日:月曜(祝日の場合は翌日) 年末・12/25~31 問い合わせ:0749-26-5833 (彦根市教育委員会文化財課)



芹川の左岸に、道が幾度も屈曲している地域「七曲がり」がある。かつては武具・武器職人の居住区だったが説があり、後世、その技術者らが仏壇作りに転向したといわれ、地場産業の一つ・彦根仏壇を生み出した。現在は仏壇の店が軒を連ねる。左の写真は、仏具を扱う商家だったが、現在ビストロなどとして営業している。

イラストは故事を元にイメージしたもので、史実を忠実に再現したものではありません。

足軽屋敷のよくみる特徴



行き止まりの路地のこと。 地図下方の足軽屋敷が並 ぶ地区には、左に曲がって もどんつき、右に曲がっても どんつきという、魚の骨のよ うに入り組んだ場所も。



Wuichigai 敵が直線的に進めないよう、 意図的に道をずらした交差 点。きれいな十字路と比べて 進行速度が遅くなるうえ、遠 くから見ると一見、行き止まり にも見える。

き根博物館 所蔵 「彦根御城下惣絵図」より一部抜

城内に残る武家屋敷跡



▲ 旧西郷家上屋敷 長屋門 4

彦根城下で現存する長屋門中最大のもの。特 に正面の外観はほとんど旧形を保ち、旧武家 屋敷の面影を残す貴重な遺構。



彦根城410年祭 イベント情報

天秤櫓特別展 HIKONE ART CASTLE 2017

国宝・彦根城築城410年祭のプロモーションムービーなどの制作に関わった4組のアーティスト「城・戦国江戸期の不易流行表現」をテーマとしたアート展を開催。※彦根城の入場料が必要参加アーティスト: 淺野健一(彫刻家)、CEKAI(クリエイティブアソシエーション)、前田鎌利(書家)、MAHARO(イラストレーター)



アプリが登場! 彦根ほんもの歴史なぞとき

楽しみながら彦根の本物の歴史を学べるアプリ。 オフラインマップ、ひこにゃんと撮影など機能満載。

期間限定!(12/10まで)なぞときをクリアすると抽選で 彦根キャッスル リゾート&スパの宿泊券があたる!



Castle Guide | 02

金帛秋のひこれを 存分を愉じむ。 ゆらっと遊覧

ゆらっと遊覧 秋色に染まる彦根城お堀めぐり



幕府の重臣だった井伊家には、大事に備えて120艘もの船が用意されていたという。現在運航する屋形船は、藩主が領内の視察や貴人の接待などに使った「藩主御好屋形船」を、当時の絵図や古写真をもとに再現したもの。玄宮園近くの船着場から山崎郭前まで、ガイドの案内を聞きながら約45分かけて内堀を往復。いつもと違う角度から、殿様気分で秋の彦根城を満喫できる。

夜間特別運航 期間中土日祝のみ運航 18時30分~/19時30分~ 通常運航時間:10時~15時(土日祝は16時) 料金:1300円※12月の運航、11名を超える場合は要問い合わせ

問い合わせ:080-1461-4123(小江戸彦根)

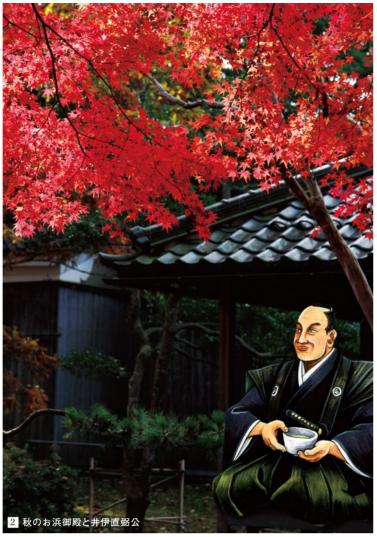


2 旧彦根藩松原下屋敷 お浜御殿特別公開

文化7(1810)年頃、11代藩主・井伊直中が琵琶湖畔に造営した庭園主体の下屋敷。周囲を巡る堀は、かつて彦根城の堀と繋がっており、藩主は城からそのまま船で乗り付けた。庭園の中心となる池は、琵琶湖の水位と連動して波打ち際が変化。折り重なる築山や緩やかに広がる洲浜と、紅葉のコラボを楽しもう。

伙の特別公開情報

11/23(祝)~12/3(日) 9時~16時(入園締切は15時30分) 料金:無料/彦根市松原町515 問い合わせ:0749-26-5833



イラストは故事を元にイメージしたもので、史実を忠実に再現したものではありません。

3 錦秋の玄宮園ライトアップ



中国唐代皇帝の離宮をなぞらえたという、贅を尽くした池泉回遊式の大名庭園。延宝5年(1677年)、4代藩主・井伊直興によって造営されたと伝えられている。かつては藩主が舟遊びに興じたという広大な池には島が浮かび、入江には九つの橋が点在。池畔には水面に突き出すように臨池閣(八景亭)が建ち、築山に佇む往時の客殿・鳳翔台とともに情趣に富んだ景観を生み出している。四季折々の美しさを奏でるこの名園は、秋景の美しさも格別。ライトアップの時間ともなれば、赤や黄色の化粧をした木々が鏡のような水面に影を映し、夜空には真っ白な天守を浮かび上がらせる。目の前に広がるその光景はまさに幽玄の世界。晩秋のひと時を過ごすにふさわしい。

夜間特別公開情報

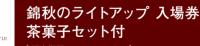
11/18(土) ~ 12/3(日) 18時~ 21時(入場締切は20時30分) 料金:700円 / 彦根市金亀町3-40 問い合わせ:0749-23-0001(彦根観光協会)







スーペリアツインルーム 1泊2食付



2名様ご利用時・1名様料金 **¥19,000~** 税金別/サービス料込み

幻想的な光で照らされる玄宮園を満喫し、ラクジュアリーな滞在を堪能できる、毎年 恒例の人気プランです。お部屋は半露天風呂が付いたキャッスルビューの特別室・ スーペリアルームをご用意。秋の味覚・松茸をふんだんに取り入れた料理に舌鼓、 近江牛と松茸のすき焼き、松茸の土瓶蒸しなど近江の旬と秋の和会席をどうぞ。

近江おもてなし会席 秋味 ▶





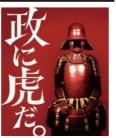
彦根城410年祭 イベント情報

彦根城 ライトアップ 城あかり

彦根城内堀を中心に、界隈が優美なライトアップで彩られる「城あかり」。特に佐和口多聞櫓に映される巨大な井伊家の紋は圧巻。開催日時:12月10日まで日没~21時(10月21日・11月23日は~22時)



彦根城博物館 戦国! 井伊直虎から直政へ 男名で家督を継いだ直虎の数奇な人生と、直政が彦 根藩初代藩主に就任するまでの道程を、貴重な美術 品・古文書などから紹介する。開催日時:10月21日~11 月28日 8時30分~17時(入館締切16時30分) ※会期中無休、料金:500円



国宝を望む城リゾート 近江牛鉄板焼 鳳凰 HOUOUで 和の癒しと洋の瀟洒を

クラシカルな鉄の扉を開けると、そこに広がるのは和と洋が融合した非日常の空間。鉄板の前に設けられた12席は、シェフの技と香り、そして音を楽しむ特別な食の舞台です。 喧騒から離れ、ただ純粋に食事を楽しむ時間を大切な人とともに…… 引答に似た羽根を持つ

喧騒から離れ、ただ純粋に食事を楽しむ時間を大切な人とともに……。孔雀に似た羽根を持つという想像上の鳥・鳳凰。その名に恥じぬ料理とパフォーマンスは、和洋の融合を更に昇華させ、お客様を「想像の世界まで羽ばたく優雅な食の世界」へと誘います。



孔雀の羽のエントランス ♪ かつて彦根藩の初代藩主・井伊直政は、徳川家康から孔雀の尾羽を使った 陣羽織を拝領しました。 鳳凰の扉のモチーフは、その屋託を彷彿させる孔雀の屋羽です。







Chef /グランシェフ 荒尾 義男 大阪府出身。40余年間フレンチの世界で活躍し、培った技と発想を独自のスタイルに昇華。和と洋を一体化させた鉄板焼で食通をも魅了します。

遊び心から生まれる 大胆なソースと食材のハーモニー

「おいしいものは柔軟な発想から生まれる」。遊び心を尊ぶ荒尾シェフが手がける鉄板焼は、繊細ながらも破天荒。その真髄は、一皿ごとに表情を変える多彩なソースに集約されると言っても過言ではありません。時には和と洋の素材を掛け合わせて、また時にはフルーツを大胆に使って……。フレンチスタイルから拡充させたそのフレキシブルなソースは、予想もつかない斬新な味の世界を開きます。焼く素材に合わせて2種類のオリーブオイルを使い分け、旨味が最高潮に達したタイミングで鉄板からお皿の上へ。その見極わめる目と流れるような手さばきは、例えるなら食のマエストロ。卓越した技術を持ち、素材の特徴を熟知するからこそ引き出せる、センシティブなハーモニーをお楽しみください。





素材にこだわった「本物の一皿」の感動

鉄板で食材を焼く――。そんなシンプルな料理だからこそ、素材は最高級のものにこだわります。メインの肉は近江八幡と竜王に自社牧場を持つ老舗・岡喜牧場の上質な近江牛を。魚介類は生で食べられるほど新鮮さを求め、サラダに使う野菜も水耕栽培されたみずみずしいものを選ぶ……。素材に絶対の自信があるからこそ、鳳凰ではあえて塩胡椒で下味をつけず、すべての品をソースで味わっていただきます。低温でじっくりと焼いた霜降りの近江肉は、断面が口ゼ色に輝き、口に運べば舌に寄り添うような柔らかさ。おすすめするワインと合わせることで、クリアな肉汁がより心地良い余韻を残します。食材の力を最大限に引き出した「本物の一皿」が持つ感動。ぜひ一度体感してみてください。



料理とマリアージュするお酒を

鳳凰では、味はもちろん見た目、エチケットにこだわったワインを取り 揃えており、お肉と相性のよい珍しい日本酒もご用意。メニューのす べてのお酒は、多数の試飲会にてお料理とのマリアージュを考え厳選し たものです。味覚、臭覚、視覚を刺激させるお酒をグランシェフの 鉄板料理と洗練された非日常空間の中でご堪能ください。





クリスマスディナーにおすすめ スパークリングワイン ジャカールブリュットモザイク Jacquart Brut Mosaique きめ細やかな泡、色合いは鮮やかな

きめ細やかな泡、色合いは鮮やかなシャンパンゴールド。ピーチ、洋ナシやアーモンドの香りが感じられ、その後に蜂蜜トーストのニュアンスも。爽快な口当たりにふくよかでロー杯に広がる果実味が特徴です。クリスマスメニューの前菜のキノコと帆立のマリネとよく合います。

¥15,000 税金込・サービス料込み





近江おもてなし会席が新しくなりました 近江ダニング格うきいう

一期一会のおもてなしで味わう美味しさとともに素敵なひとときをお過ごしいただける和会席をご用意いたしました。オープンキッチン にて、魚介類と旬の湖魚を備長炭で焼き上げ素材の旨味をぎゅっと閉じ込めふっくらと仕上げます。近江牛は、水晶プレートにてお好み で焼いて楽しむスタイルに変更し、より一層美味しくお召し上がりいただけるようにご準備いたしました。水晶プレートは、遠赤外線効果 でお肉をよりジューシーに仕上げ煙が出にくく、油がはねにくい特徴があります。ぜひ、近江牛本来の甘味をお楽しみくださいませ。食材 本来のもつパワーや旨味を存分に生かし、四季を感じる日本料理に仕上げます。ご来店心よりお待ちしております。



ホテル1F / 昼11時30分から14時LO /夜17時30分から20時30分LO / お問い合わせ(直通)0749-21-3001









Castle Guide More More Enjoy は、彦根の魅力を発掘し、もっともっと楽しいところを日本全国に発信する情報誌

● 彦根キャッスル リゾート&スパ 国宝彦根城 いろは松前 HIKONE CASTLE RESORT&SPA

ご予約/お問い合わせ

滋賀県彦根市佐和町1-8 [JR彦根駅より徒歩8分] **0749-21-2001**

www.hch.jp



近江牛味噌漬

近江牛肉味噌漬は古来、元和の頃より彦根藩において戦国の世の不時 の備えとして貯蔵され、救荒食料として充てられていました。また時の藩 主井伊直孝は将軍家・御三家に御養生肉として、この牛肉味噌漬を 献上し、以来彦根藩の慣例となったと伝わります。

近江ダイニング橘菖、近江牛鉄板焼鳳凰でも使用している「岡喜牧場」 の厳選された近江牛を、風味栄養とともに味噌漬けにしました。最高 の味をこころゆくまでご賞味ください。



ご注文・お問い合わせはコチラ 0749-21-3071

彦根キャッスル リゾート & スパ内 営業時間:8時から20時まで(冬期は19時まで









冷凍 1枚入り(約60g)¥1,200

約60gが5枚ほど入っています 別途 クール便送料 1,080 円(全国一律) ※冷蔵 300g は、竜王町 岡喜本店よりお届け